

生徒発表

走れ 私の絵物語

—地域・企業連携で私たちにできること—

神奈川県立神奈川工業高等学校
デザイン科 2年 平林 亜斐
指導教諭 橋本 喜代枝

1. はじめに

本校は、今年で創立 105 周年を迎える県内有数の伝統校であり、機械科、建設科、電気科、デザイン科の 4 科をもつ工業高校である。ものづくりを通し、自分たちの活動が社会に貢献できるように、日々学習に励んでいる。

特に自分たちで課題を見つけ、自分たちで問題解決に向けて探求する授業展開や活動が特徴的である。その中の一部として、デザイン科では様々な地域、企業との連携事業があるのでここで紹介をする。

2. デザイン科のコンソーシアム

本校のデザイン科では、これまでも地域・企業と連携して様々な課題を研究してきた。例として、平成 27 年度は、近隣である六角橋商店街と連携し、課題発見→解決方法の模索→試作品制作→本制作→商品納入という流れで次の 3 つの企画を行った。

① イベント「プロレス」のレスラー登場時着用ガウンの制作。

レスラーが着用する 6L という大きいサイズのガウンを 2 着制作し、登場シーンで使用された。週間プロレスに掲載されて、



YOUTV などでも紹介された。

② SNS で広報するための商店街の CM や、ショートムービーの制作。

商店街側から、商店街を若者に向けて広報をしたいという依頼があり、



学生がよく使用する SNS サイトなどを利用した広告方法を提案した。ショートムービーでは商店街の人と一緒に踊って、商品を紹介したり、6 秒の CM を印象的に作ってみたいと様々な方法を提案することができた。

③ 掲示板に、目印となるモニュメントを制作。

大学生や受験生がよく通過する商店街入り口の掲示板に「六角神」という七福神のようなご利益がある神様をモニュメントにして掲示した。マスコットも樹脂素材で制作し、見つけるとご利益があるとイベントなどで活用できるキャラと



して提案した。この3つの企画で地域の商店街の活性化を促す製品を提供できたことが昨年度の成果である。

3. 企業との連携

本校のデザイン科は課題をとおして、地域や企業と連携し、より良い社会となるようにものづくりの知識とアイデアを提供する活動を行っている。そしてその様々な機会がある中で、私も企業と連携した一つのイベントにデザインを提案することができた。

廃棄物処理事業社である横浜環境保全株式会社と連携し、ごみ収集車（通称パッカー車）のラッピングデザインを募集するという企画が本校に依頼されたことがきっかけである。

4. 企画内容

企画内容は、「ごみという良くないイメージを、子供たちが格好いいと思えるようなイメージに変えたいので、子供たちが手を振るようなデザインのパッカー車を走らせたい」と言うものであった。コンペの内容は、指定の用紙に手書きでイラストを描いて提出するシンプルなものであったが、期間が9月初頭から10月末日までとなっており、本校の文化祭時期と重なることから、時間が限られていたが、私は絶対にやりたいと思っていた。

5. デザイン案

そこで私は、まずこの企業が目指すコンセプトを読みとることにした。ホームページなどで企業の目標や理念を検索すると、生ごみを堆肥にして再生するような技術を研究開発している企業だったので、その思いを物語にしてみたら伝わるのではないかと考えた。

イラストの物語は、パッカー車の右側面から左側面へと続くもので、右側面ではパンダや猫の宇宙飛行士が星屑を集めているような構図にし、左側面にその集めた星屑を怪獣に手渡すことで、地球をきれいな花に変えてくれるという内容になっている。ゴミをそのまま描くのでは



デザイン案

なく星屑にすることできれいな印象にし、それを集めて怪獣に手渡すことで、きれいな花になるという物語にして、3Rであるリユース・リデュース・リサイクルの意識を自然ともてるようなデザインにした。

このデザインのラッピング車がゴミの収集場所に来たら、ゴミを出す人たちが3Rについて考えてくれたり、子供たちが自然と物を大切にしてくれたりしたらうれしいと思った。

6. 表彰式・除幕式

その私の物語の意図が企業に伝わったのか、私のイラストが最優秀賞になった。後で企業の社長に聞いたところ、「自分たちの企業の目指すことを良く理解してくれている」と、多数の現場の職員が投票してくれたとのことだった。自分が考えて提案したことが伝わってとてもうれしかった。ラッピング作業では1ヶ月ほどの期間でラッピング業者に作業してもらい、12月にでき上がったので、企業側より表彰式と実際





のラッピング車のお披露目として除幕式をしてもらった。

除幕式では、企業の方が一斉に幕をはずしてください、デザイン科の1年生から3年生の全員と、他科の生徒の皆さんの前でのお披露目となった。実際のラッピングデザインはすごく大きく引き延ばされ、私の描いた絵が大きなごみ収集車になっていることに驚きとうれしさを感じた。学校付近のルートを集車で回る職員が手を上げてくださり、学校近辺のルートにこのパッカー車が利用されることとなった。実際に私たちの目に触れる機会も多くなっている。

当日は、デモンストレーションとしてゴミを入れる後方のコンテナ部分を動かしてもらったり、ラッピング車の前でたくさん記念写真を撮らせてもらった。賞状や副賞も頂き、良い体験となり、これから作品に取り組むときの自信となった。



7. 評価

全国版の業界紙である「環境新聞」や「物流ニッポン」に掲載され、企業の活動と自分のデザインが全国の物流や環境に関わる企業に知ってもらえることができた。また、「月刊廃棄物」という雑誌にも載る事ができた。そして近隣で配布される「タウンニュース」にも記事として掲載され、地域の人たちに学校の活動を伝えることができた。また全国の高校に配布される「高校生新聞」の工業高校生特集として取り上げられた。このように様々なメディアに載ることで、学校の活動と、自分のデザインを評価してもらうことができた。

8. 企業との関係

今回のパッカー車ラッピングデザインの企画の横浜環境保全株式会社との連携をきっかけ



に、もっと子供の未来のために、エコをテーマとしたイベントをしようと、3年生の課題研究で先輩たちが企業と連携することとなった。その内容は、廃材を利用したウォータースライダーと滑走する乗り物の制作であった。「横浜パパ会」というボランティア団体と横浜環境保全株式会社との共同企画に、学校も連携することとなった。廃材でアクティビティや遊具を作り、子供に遊んでもらうことでエコについて一緒に考えようという企画である。先輩たちは廃材から親子や子供が乗れる乗り物を制作し、当日たくさんの子供たちに乗ってもらった。子供たちと一緒に遊び、イベントを手伝うことで自分たちもエコについて考えるきっかけになったと聞いている。こうして一つの企業と連携すると次々にこういった社会に貢献できる機会が生まれていくのだと思った。



9. 地域・企業 連携の重要性

私たちデザイン科では、地域や企業の依頼を受けてデザイン企画を提案したり、イベントへの参加を行ったりする機会が授業や課題の中でたくさんある。この機会をとおり、私たちはデザインが人や社会の為になるということを実感できている。私たちのアクションで、地域と学校、企業と学校、大学と高校など様々なコンソーシアムが生まれ、その能力を発揮したり技術を学びあったりすることができる。何より、私たちの考えが社会に反映するという素晴らしい機会を、授業や課題の中で経験することができるのである。

10. おわりに

今回は成功例を挙げることができたが、失敗することで費用が無駄になったり、良くない方向へと導くきっかけを作ってしまったたりすることもあるだろう。学校の授業や課題ではあるがその責任は大きい。しかし、だからこそ成功したときの喜びも大きく、責任を持って取り組む姿勢が生まれ、慎重さも培うことができる。今後社会に出て活躍するであろう私たちにとっては素晴らしい体験となっている。私は2年生なので、3年生になっても積極的に様々な機会に参加し、デザインやものづくりをとおして社会に貢献できるように成長したいと思っている。



工業教育資料 通巻第 371 号
(1月号)

2017年1月5日 印刷
2017年1月10日 発行
印刷所 株式会社インフォレスト

© 編集発行 実教出版株式会社
代表者 戸塚雄式
〒102 東京都千代田区五番町5番地
- 8377 電話 03-3238-7777
<http://www.jikkyo.co.jp/>